

大学評価学会通信

目次

◆ 第8期 共同代表理事からのメッセージ	1
◆ 第18回大会報告	3
◆ 第18回年次総会報告	4
◆ 理事会報告	10
◆ 大学評価学会 第Ⅷ期体制	11
◆ 第7回「田中昌人記念学会賞」	12
◆ 研究会開催について	13
◆ 第19回大会について	13
◆ 図書紹介	14
◆ 年報第18号への投稿募集	15

第8期 共同代表理事からのメッセージ

(50音順)

ご挨拶

岡山 茂 (早稲田大学)

世界は揺らいでいる。日本の大学とアカデミアも揺らいでいる。そのなかで船酔いのようにもならず論文を書いていられるとすれば、それは乗っている船が少々の波では揺れない立派な船であるということか。そういう船なら一年に一度はどこかの港に寄りながら、クルーズのような旅を続けることができるかもしれない。しかし昨年度はどこにも寄港できない船が多かった(われわれも桜美林大学での学会が中止になった)。まるでダイヤモンド・プリンセス号に閉じこめられた乗客のように、授業やゼミさえオンラインでやるしかなかった。揺れは今も収まらない。

リオタール、レディングス、デリダは1970年代以降に、カントの大学への回帰というか、近代の大学の脱構築という大きな方向を示している。リオタールは近代の大学がもはや機能しえないポストモダン的狀況を語りつつ、彼自身はカントのような哲学者のままだった。レディングスが『廃墟の

なかの大学』を書いて、若くして飛行機事故で死んだのは象徴的だった。廃墟さえとり壊され、地ならしされた土地に新しいビルが建つ21世紀の光景を、彼は見る事がなかった。デリダは、ヨーロッパ(EU)はユーラシアから離れて大西洋に漂い出した「岬」(キャップ)であるといい、キャプテン(船長)のいないその船で、大学がキャピタル(資本=首都)となるようなもう一つのキャピタリズム(「他の岬」)を構想した。社会学者のブルデューや歴史学者のシャルルには、哲学者たちはイマジネールな妄想に耽っているように見えたろう。しかし彼らも「他の岬」を目指していた。

「あなたは乗船している」(パスカル)。世界にはフロンティアをめざすヴェアスコ・ダ・ガマのような科学者もいれば、地中海をゴムボートで渡ろうとする難民もいる。ヨットで海に出たわたしは、マストが折れて漂流しているところを(「孤

独、暗礁、星」マラルメ)、大学評価学会という船に拾ってもらった。さいわいこの船は、タイタニックのような豪華客船ではないし、近海で魚を獲るための漁船でもなかった(冰山や他の船におつかって沈むことはなかった)。でもどこに向っているのだろう。それに日本という国は大丈夫なのだろうか。あと数年のクルーズを愉しみたいと

思っていたけれど、細川さんとともにもう一期共同代表を務めたいと思うようになりました。「共同代表」は船長ではありません。われわれにはディシプリンを超える真摯な対話と鞭撻が必要です。いつでも自由にご意見くださるようお願い申し上げます。

大学評価学会とともに歩んで

細川 孝 (龍谷大学)

ことまかな経緯は省かせていただきますが、代表理事をお引き受けすることは、わたしにとって全く想定外のことでありました(とんでもない書き出しから始まることとお詫びいたします)。

わたしは学会の設立準備から関わったのでもう17年間、本学会とお付き合いしてきたこととなります。途中で1期のみ理事(事務局長)を務めました。それ以外は幹事(設立当初は事務局員)として学会の運営に携わってきました。敬愛する田中昌人さん(初代の代表)からは「10年は続けるように」との命を受けて、10年、15年が過ぎ、17年を目前して「もうそろそろえんやん」との思いを強くしていたのですが、その願いは叶いませんでした。

さて、第18回全国大会の閉会あいさつでは、次のようなことを述べさせていただきました。まず、大学評価学会の活動を自己評価する必要があるということです。そして、本学会は学会誌の書名(『現代社会と大学評価』)にある通り、現代社会との関わりで大学評価を研究するという点で特徴があるということです。さらに、(最初の点とも関係するのですが)学会のマネジメントという課題を考える必要があるということです。

以上の3点は、学会設立以来、事務局の運営に関わってきた者としての率直な思いであります。閉会あいさつでは、この他に、大学評価において学生や教職員のことが語られるが、そこには非常勤講師や非正規雇用の事務職員の人たちのことは視野に入っているのかということも述べさせていただきました。

大学評価学会は稀有な学会であると思っています。それは、大学評価を(制約なしに)学術的に探究するからです。このことは当たり前と思われるかもしれませんが、そうとも言いきれないで

しょう。大学評価を研究の対象とする学会は他にも存在しますが、本学会における大学評価の研究は、学生の発達保障という観点からのものである、大学に関わる者たちの権利保障を視野に入れている、などの特徴を有しています。

この点で、わたしは本学会で「『大学評価村(大学評価利益共同体)』研究の基本視角ー日本の『大学評価』の特異性ととの関係でー」(第11回全国大会、2014年3月1日、山梨大学)と題する報告を行ったことを思い出します。「大学評価村」という言葉は、その前々年の早稲田大学で開催された全国大会であったと記憶しているのですが、会場において非会員の参加者が発した言葉なのです。この報告以降、「大学評価村」という視角からの研究を深めることはできていないのですが、大学評価学会はこの「村」とは無関係に存在し続けたことは貴重であったと思います。

このような指摘は、大方の誹りを免れないかもしれませんが、大学評価の研究から批判的な精神を失ってはならないという趣旨のものであり、ご容赦願いたいと思います。実際、本学会の取り組んできたPDCAサイクル批判や、漸進的無償化研究などは社会的にも意義あるものであったと言えるでしょう。

最後に、一言。わたしは新しい代表理事のあり方を探究したいと思いますし、それをお許し願いたいということでもあります。それは、(実質的には幹事を兼ねた)代表理事として、会員の皆さんの研究を支える(というとおこがましいのですが)ことに力を尽くしてまいりたいということです。これが、本学会で新しい友人の方々と出会う機会を与えていただいたことへの恩返しです。

学会設立20年の節目を迎える2024年3月までよろしく願いいたします。

第18回大会報告

第18回大会実行委員会

大学評価学会第18回大会を終えて

大学評価学会第18回大会（中嶋哲彦大会実行委員長）は、2021年3月6日(土)～7日(日)に開催されました。本大会は当初、愛知工業大学自由が丘キャンパスでの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン形式で開催されました。2日間を通じて70名の参加がありました。はじめてのオンライン形式での開催の大会でしたが、参加者のみなさんのご協力を得て、円滑に大会運営ができました。ご参加いただいたみなさまに御礼申し上げます。

大会プログラムは例年通り、1日目に自由研究発表、会員総会、大会シンポジウム、2日目に課題研究Ⅰ、課題研究Ⅱがそれぞれ開催されました。1日目の自由研究発表（司会：米津直希会員）では3本の発表があり、活発な議論が展開されました。続いて、大会シンポジウム「大学教育とコロナ危機」（司会：日永龍彦会員）が開催され、二つの報告（光本滋会員「コロナ危機と大学評価の視点」、村山琮明氏「COVID-19感染症と大学における感染症対策とその実情・課題」）を得ました。開催中止となった前回大会では、大学自治を基盤とする教員・職員の職業専門性と大学自治の担い手としての学生の位置づけの観点から、「大学人像」の再構築をめざそうとしましたが、コロナ危機において大学教育の構造的問題が浮き彫りになる中でこうした「大学人像」がより問われることとな

りました。そうした状況を踏まえ、同シンポジウムでは、参加者の活発な議論もあり、コロナ危機における学生の不安・困難とそれらへの支援、大学教育をめぐる政府や各大学のガバナンス等の課題を総括・分析し、ポストコロナの大学や大学人のあり方を展望する機会となりました。

2日目の課題研究Ⅰ（教職協働）は、「大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた日・韓・台比較研究（3）」をテーマに開催され（座長：深野政之会員）、深野会員、菊池芳明会員、光本茂会員からの報告を受けて、日本の大学職員論の特徴の検証を通じて大学職員の新たな役割モデルを提示するための課題について議論が行われました。続く課題研究Ⅱ（青年期の発達保障）では、「学ぶ権利の実質を保障しうる大学評価のあり方を探る（1）」をテーマに開催され（座長：西垣順子会員）、早田幸政会員、中田晃会員からの報告を受けて、学生の学ぶ権利を高等教育へのアクセス可能性とその内容の両方から保障するために、大学評価がどのような役割を果たし得るのか議論されました。

なお、第18回大会では、オンライン開催にあたり、石渡尊子理事（桜美林大学）に多大なご協力をいただくとともに、同大のオンライン学会システムを利用させていただきました。改めまして御礼申し上げます。

（文責 川口洋誉）

課題研究2 青年期の発達保障「学ぶ権利の実質を保障しうる大学評価のあり方を探る（1）」

青年期の発達保障委員会発足後、今回が初めて、大学評価の問題を取り上げました。早田幸政会員から「『確かな学力』に根ざす高大接続の方向性と今後の大学評価のあり方」、中田晃会員から「新たな大学評価を考

える—制度と「制度」の間で」というタイトルでご報告をいただき、中井睦美会員からコメント「学生は、コロナ禍で何を大学に求めたのか？学生の考える学修成果と大学の考える学修成果」をしていただいたのちに、フ

ロアの方々も交えて議論を行いました。

早田会員からは、教育を受ける権利の保障には、家庭の経済的状況に関わらず進学できるような制度（漸進的無償化など）と合わせて、様々な背景をもつ大学入学希望者の、それまでの人生での学びを適切に評価して大学入学への道を開く仕組みも重要であるとの指摘があり、特にユネスコによる高等教育圏づくりを中心に報告がありました。中田会員からは、大学教職員が「このような評価を行うべき」と考えることと、社会への説明責任に耐えうる評価は必ずしも一致しないという難しさがあること、新しく発足した認証評価機関では点検評価ポートフォリオを導入するこ

とで、この困難を解消しようとしていることなどが報告されました。中田会員からは、学修成果の可視化の重要性を学生や教職員に理解してもらうことの難しさと重要性、またコロナ禍での学びの状況などについてコメントがありました。

全体討論では、学修成果の可視化とはそもそもどういうものであるのか、高校と大学での違いと接続、憲法に保障された権利と大学評価のあり方、国際的な高等教育圏構想の理想と現実などに関する議論がありました。より詳細な報告は、大学評価学会年報に掲載される予定ですので、ぜひご一読ください。

(文責 西垣順子)

大学評価学会 第18回年次総会

2021年3月6日(土) 13:30~Zoomによるオンライン開催

1. 議長選出 (藤原隆信、白波瀬正人)
2. 第8期理事の選出 理事選出管理委員会 (石井拓児、津田道明)
3. 第8期会計監査人の承認 垂髪あかり (神戸松陰女学院大学)、水野哲八 (龍谷大学)
4. 第8期顧問の了解 池内 了・井上千一・植田健男・碓井敏正・蔵原清人・広渡清吾・細井克彦・朴木佳緒留・三輪定宣・山本健慈・渡部昭男の各氏 (計11名)
5. 2020 会計年度活動総括 (案) について
 - 〈学会年報〉 第16号の発刊 (2020年8月) / 第17号の編集
 - 〈シリーズ本〉 シリーズ本第9巻を作成中
 - 〈研究会活動〉
 - ・ 第58回研究会 2020年9月6日 (Zoomによるオンライン開催)
 - 〈前半〉大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた日・韓・台比較研究
 - (3) 企画：深野政之 (大阪府立大)
 - 報告：村上孝弘 (龍谷大学)、安東正玄 (立命館大学)・飯野勝則 (佛教大学)、菊池芳明 (横浜市立大学) 指定討論：光本滋 (北海道大学)
 - 〈後半〉大学の現在、コロナ禍のなかで考える (佐藤郁哉氏 (同志社大) 他) 企画：岡山茂 (早稲田大学)

- ・第59回研究会 2020年12月5日 (Zoomによるオンライン開催)

青年期の発達と学びを考える—当事者が語る高大接続課題— 企画：小池由美子 (上田女子短期大学)

〈課題研究・委員会等の活動〉

- ・「教職協働」委員会の活動実績を基盤とした科研費 (C) (代表：深野/2018-20) の最終年度。MLを通じて情報交換、第58回研究会の開催など。
- ・「青年の発達保障」委員会 (2016.5.発足/世話人：西垣・川口) について、MLを通じて情報交換。第59回研究会の開催など。

〈学会通信〉 年2回発行：第50号 (2020年6月)、第51号 (2021年1月)

〈臨時総会〉 2020年8月に郵送による方式で実施。第8期理事会選出管理委員2名を選出。

〈理事会〉

第VII期 第4回通信理事会 (3/9-15)、第5回通信理事会 (6/15-19)、第6回通信理事会 (8/1-5)、第7回理事会 (9/6; Zoomによるオンライン開催)、第7回通信理事会 (10/6-12)

第8回理事会 (12/5; Zoomによるオンライン開催)、第8回通信理事会 (2021年2/24~3/2) 第9回理事会 (2021年3月5日; Zoomによるオンライン開催)

〈会員現況〉

会員数：156 [内訳 会員：149 協力会員：7 (団体会員1を含む)]

〈日本学術会議/教育関連学会連絡協議会〉

- ・教育関連学会連絡協議会第8回総会 (メール審議) に参加 (日永共同代表)
- ・理事会として「菅首相による日本学術会議会員の任命拒否に関する声明」を出した (10/12) 他、「日本学術会議第25期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明」にも参加した。

〈その他〉 教育関連学会連絡協議会第8回総会 (2020.3.メール審議) への参加

6. 2020会計年度決算 (案) および監査報告 【総会参考資料】
7. 2021会計年度活動方針 (案) について
8. 2021会計年度予算 (案) について 【総会参考資料】
9. 第19回全国大会について
10. その他 前年度田中昌人記念学会賞受賞者挨拶

総会参考資料

2020 年度決算案 (2020 年 3 月 1 日～2021 年 2 月 28 日)

【一般会計】

	2020 年度予算	2020 年度決算	内容
前期繰越金	1,148,371	1,148,371	
会 費	705,000	651,200	過年度会費を含む
2020 年度会費	600,000		
過年度会費	105,000		
年報販売売上	100,000	98,640	第 15 号
雑収入	1,000	0	
<収入合計>	1,954,371	1,898,211	
全国大会 (第 17 回)	112,000	114,215	
開催補助 (特別会計へ)	0	0	
予稿集印刷	100,000	86,020	第 17 回大会
大会案内印刷・送付費 1)	12,000	28,195	予稿集送付含む
年 報 (第 16 号)	425,000	273,143	
編集・印刷費	400,000	255,600	
送付費 (封筒等含む)	25,000	17,543	
学会通信 (年 2 回)	120,000	75,127	
印刷費	70,000	41,745	
送付費 (封筒等含む)	50,000	33,382	
研究例会 (年 2 回)	80,000	10,000	
会場費他 2)	75,000	10,000	講演謝礼
湯茶等	5,000	0	
理事会会議費	130,000	0	交通費、茶菓代
事務費・事務用品費 3)	60,000	45,067	
支払手数料	22,000	17,589	郵便振替手数料他
委託費	50,000	21,000	版下作成ほか委託
会費	10,000	10,000	教育関連学会連協
予備費 4)	100,000	75,075	第 18 回大会予稿集
<支出合計>	1,109,000	641,216	
<次期繰越金>	845,371	1,256,995	

注 1) 第17回大会の予稿集を全会員に送付したため予算を超過している。

2) 研究例会では非会員を招聘し講演いただいたため、講演謝礼をお支払いした。

3) 事務費・事務用品費には、通信費 (9,464 円) を含んでいる。

4) 第18回大会の予稿集を事前に全会員に送付するため、予備費から支出した。

【全国大会 特別会計】

	2020 年度予算	2020 年度決算
前期大会繰越金	271,277	271,277
全国大会（第 17 回大会）	0	0
開催補助（一般会計から）	0	0
参加費	0	0
雑収入	0	0
<収入合計>	271,277	271,277
会場費	0	0
講師等謝金・旅費	0	0
アルバイト代	0	0
諸雑費	0	0
予備費	0	0
<支出合計>	0	0
<次期大会・繰越金>	271,277	271,277

注) 第 17 回全国大会は中止としたため収支は発生しない。

【シリーズ本 特別会計】

	2020 年度予算	2020 年度決算
前期繰越金	130,429	130,429
シリーズ本売り上げ	52,500	7,500
第 8 号：学会売上	7,500	7,500
同：晃陽書房還元	0	0
第 9 号：学会売上	45,000	0
同：晃陽書房還元	0	0
雑収入	10,000	0
<収入合計>	192,929	137,929
シリーズ本・継続企画	310,000	0
編集・印刷費	300,000	0
送料	10,000	0
予備費	10,000	0
<支出合計>	320,000	0
<次期繰越金>	△ 127,071	137,929

【貸借対照表（2021 年 2 月 28 日現在）】

資産		負債	
現金	24,273	次期繰越金	1,666,201
郵便振替口座	1,641,928		
合計	1,666,201	合計	1,666,201

監査報告書

2021年3月4日

監査報告書

大学評価学会 御中

2020年度(2020年3月1日～2021年2月28日)大学評価学会の決算を本F監査いたしました。帳簿、記原はすべて正確に処理されていることを認めます。
なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますようお願いいたします。

以上

会計監査人 角岡賢一 (印)
会計監査人 塚田亮太 (印)

2021年度予算案(2021年3月1日～2022年2月28日)

【一般会計】

	2021年度予算	2020年度決算	2020年度予算
前期繰越金	1,256,995	1,148,371	1,148,371
会費 1)	690,000	651,200	705,000
2021年度会費	600,000		600,000
過年度会費	90,000		105,000
年報販売売上	100,000	98,640	100,000
雑収入	1,000	0	1,000
<収入合計>	2,047,995	1,898,211	1,954,371
全国大会(第18回大会)	70,000	114,215	112,000
開催補助(特別会計へ)	40,000	0	0
予稿集印刷 2)	0	86,020	100,000
大会案内印刷・送付費(19大会)	30,000	28,195	12,000
年報(第17号)	400,000	273,143	425,000
編集・印刷費	375,000	255,600	400,000
送付費(封筒等含む)	25,000	17,543	25,000
学会通信(年2回)	100,000	75,127	120,000
印刷費	60,000	41,745	70,000
送付費(封筒等含む)	40,000	33,382	50,000
研究例会(年2回)	50,000	10,000	80,000
会場費他	45,000	10,000	75,000
湯茶等	5,000	0	5,000
理事会会議費	100,000	0	130,000
事務費・事務用品費 3)	50,000	45,067	60,000
支払手数料	22,000	17,589	22,000
委託費	50,000	21,000	50,000
会費(教育関連学会連絡協議会)	10,000	10,000	10,000
予備費	100,000	75,075	100,000
<支出合計>	952,000	641,216	1,109,000
<次期繰越金>	1,095,995	1,256,995	845,371

注 1)2021年度会費は、@6,000×80人、@3,000×40人で算出した。過年度会費は、@6,000×10人、@3,000×10人で算出した。2021年3月現在の会員数は156人(うち協力会員は7

- 人) である。
- 2) 第18回大会の予稿集は、2020年度に支出済みである。
- 3) 事務費・事務用品費には、通信費、学会ホームページのサーバー使用料などを含む。

【全国大会 特別会計】

	2021 年度予算	2020 年度決算	2020 年度予算
前期大会繰越金	271,277	271,277	271,277
全国大会 (第18回大会)	0	0	0
開催補助(一般会計から)	40,000	0	0
参加費	0	0	0
雑収入	0	0	0
<収入合計>	311,277	271,277	271,277
会場費	0	0	0
講師等謝金・旅費	20,000	0	0
アルバイト代	0	0	0
諸雑費	10,000	0	0
予備費	10,000	0	0
<支出合計>	40,000	0	0
<次期大会・繰越金>	271,277	271,277	271,277

注) 第18回全国大会(2021年3月6日、7日)はオンラインでの開催である。

【シリーズ本 特別会計】

	2021 年度予算	2020 年度決算	2020 年度予算
前期繰越金	137,929	130,429	130,429
シリーズ本売上	49,500	7,500	52,500
第8号:学会売上 1)	4,500	7,500	7,500
同:晃陽書房還元	0	0	0
第9号:学会売上 2)	45,000	0	45,000
同:晃陽書房還元	0	0	0
雑収入 3)	10,000	0	10,000
<収入合計>	197,429	137,929	192,929
シリーズ本・継続企画	310,000	0	310,000
編集・印刷費	300,000	0	300,000
送料	10,000	0	10,000
予備費	10,000	0	10,000
<支出合計>	320,000	0	320,000
<次期繰越金>	△ 122,571	137,929	△ 127,071

注 1)第8号の学会売上は、3部(頒価@1,500)を見込んだ。

2)第9号の学会売上は、30部(頒価@1,500)を見込んだ。

3)雑収入は、第7号までの販売を見込んだ。

理事会報告

第Ⅶ期第8回通信理事会

日時：2021年2月24日（水）～3月2日（火）

回答：岡山・日永・井上・光本・深野・安東・水谷・村上・石渡・片山・米津・松下・小池・菊池・望月・西垣（16名）

【審議事項】

1. 第8期体制（顧問・理事・幹事・監査）の今期理事会からの推薦について

第Ⅶ期第9回理事会

日時：2021年3月5日（金）17:00～18:20

場所：Zoomによるオンライン開催

出席者：石渡・井上・岡山・川口・小池・菊池・小山・西垣・日永・深野・藤原・松下・光本・村上・望月・米津（16名）

【報告事項】

1. 活動報告について（2020年12月-2021年2月）
2. 学会年報について（17号）
3. シリーズ本9巻について
4. 第18回大会について
5. 第8期体制について

【審議事項】

1. 会員の異動について
2. 第18回全国大会の記録について
3. 学会通信第52号の発行について
4. 第18回会員総会の議案および運営について
5. 第19回全国大会について
6. その他
 - 1) 第8期体制案への幹事候補の追加について
 - 2) 次年度以降の大会予稿集の配布範囲について

第Ⅶ期第10回理事会・第Ⅷ期合同理事会第1理事会

日時：2021年3月7日（日）11:40～12:50

場所：Zoomによるオンライン開催

【報告事項】

1. 第18回総会報告
2. その他

【審議事項】

1. 理事等の役割分担について
代表・副代表・事務局長
教育学関連学会等連絡協議会への代表田中昌人記念学会賞選考委員長
学会運営に係る委員会の設置（特に広報）年報編集委員会
学会通信作成（編集・版組）事務局の体制
シリーズ本第9巻編集委員会
2. 第19回大会実行委員会について
3. 2021年度の研究会および理事会の日程・場所について
4. 第20回大会と第21回大会の開催地および実行委員会の組成について

大学評価学会 第VIII期体制

顧問

（50音順。以下同じ）

池内了・井上千一・植田健男・碓井敏正・蔵原清人・広渡清吾・細井克彦・朴木佳緒留・三輪定宣・山本健慈・渡部昭男

理事

（◎代表、○副代表、□事務局長）

- 安東 正玄（立命館大学、図書館情報学・大学政策経営）
石渡 尊子（桜美林大学、教育学）
◎岡山 茂（早稲田大学、フランス文学）
片山 一義（札幌学院大学、社会政策・労働史）
菊池 芳明（横浜市立大学、高等教育政策・大学経営）
小池 由美子（上田女子短期大学、高校教育・青年期教育）
小山 由美（日本大学、薬学・薬剤師教育評価認定）
瀧本 知加（京都府立大学、職業教育・青年期教育）
中山 弘之（愛知教育大学、教育学・社会教育）
□西垣 順子（大阪市立大学、発達心理学）
○日永 龍彦（山梨大学、教育学）
深野 政之（大阪府立大学、高等教育論）
藤原 隆信（筑紫女学園大学、NPO・社会的企業論）
◎細川 孝（龍谷大学、経営学）
松下 尚史（岡山理科大学、メカトロニクス／制御工学）
○水谷 勇（神戸学院大学、教育学）

- 光本 滋 (北海道大学、高等教育論)
村上 孝弘 (龍谷大学、大学アドミニストレーション論)
米津 直希 (南山大学、教育経営学)

幹 事

石井 拓児・上中 良子・金丸 彰寿・川口 洋誉・國本 真吾・塩見 歩・重本 直利・田中 秀佳
永井 康代・中田 晃・中道 眞・望月 太郎

編集委員

石渡 尊子・川地 亜矢子・谷川 弘治・水谷 勇・村上 孝弘

会計監査

垂髪 あかり・水野 哲八

第7回「田中昌人記念学会賞」に係る対象業績等の推薦について

「田中昌人記念学会賞」運営規程（2009年8月）に基づき、以下の要領で対象業績等の推薦を受け付けます。

締 切：2021年12月27日（月）正午まで

対 象：1)本学会誌（～第17号）および本学会シリーズ本（～第8巻）の掲載原稿

2)学会以外の出版物およびそこでの掲載原稿

※2)の場合は会員2名以上の推薦者による推薦が必要

書式等：推薦者氏名・所属、推薦年月日、対象業績及び氏名、推薦理由を記した書面を下記送付先まで電子メールに添付の上お送りください。

学会ウェブサイト「田中昌人記念学会賞」に格納されている第1～6回受賞の情報を参照のこと

その他：「田中昌人記念学会賞運営規程」および推薦書の記入例は学会ウェブサイト「田中昌人記念学会賞」をご参照ください。

対象業績の推薦を受け、2022年1月以降に選考委員会が選考を行い、同3月開催の第19回全国大会前に開催される理事会での審議を経て、全国大会中に開催される会員総会時に公表する予定です。

【送付先・問合せ】

第7回「田中昌人記念学会賞」選考委員会 日永龍彦（山梨大学）

E-mail : info@unive.jp

研究会の開催について（報告者募集）

第60回研究会

日時：8月29日（日）

場所：オンラインで開催

報告者・発表題目：荒木奈美（札幌大学）「未定」

※あわせて「第19回大会の大会テーマに関する報告と意見交換」を行います

※詳細は学会HPに掲載します。8月になりましたらHPをご覧ください

第61回研究会

日時：11月末～12月上旬

場所：オンラインで開催

報告者・発表題目：未定（報告者を募集しています。学会事務局までご連絡ください）

大学評価学会第19回大会について（第一次案内）

日程：2022年3月5日（土）～6日（日）

場所：龍谷大学（深草キャンパスないしは大宮キャンパスを予定）

概要：自由研究発表、ポスター発表、総会、シンポジウム、課題研究（予定）

※ 今後、COVID-19感染の状況によっては、第19回大会についてもオンラインでの開催を視野に入れて準備を進めてまいります。今後、理事会・大会実行委員会において実施方法について検討を進め、随時学会ウェブサイトにおいて情報提供を行います。

<自由研究発表（口頭発表）およびポスター発表の申し込みについて>

大会期間中、会員の「自由研究発表」・「ポスターセッション」を開催します。会員の皆様にはふるってお申し込み下さい。申し込み方法の詳細は、大学評価学会年報の発送時に同封の案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。第19回大会情報を随時更新してまいります。

なお、入会手続きをすれば発表が可能です。非会員の方で発表希望の方は、学会事務局（hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）までご連絡ください。

【申し込み受付期間】 2021年10月1日（金）～11月30日（火）

【想定されるテーマ】 大学・学術の果たすべき役割、大学評価や法人経営のあり方、評価書の読み方・読み解き、大学評価・大学教育政策、公立大学問題、センター・附属施設の機能、教職協働の取り組み、FDや学生参画、授業づくりの実践、アクティブ・ラーニング、高大連携・高大接続の現状と課題、学生・青年の発達保障・移行支援、就活・キャリア教育、無償教育の漸進的導入、ジェンダー問題・男女共同参画、多様性と包摂など

【報告要旨集の原稿締め切り】 2022年1月31日（月）の予定

【申込先】 第19回大会実行委員会事務局 info@unive.jp

図書紹介 コロナ・パンデミック時代の大学を考える（生きる）指針 — 光本滋会員の新著に寄せて —

細川孝（龍谷大学、経営学・大学評価論）

会員の光本さんから学会宛に新著を謹呈いただいた。『2020年の大学危機—コロナ危機が問うもの—』クロスカルチャー出版、2021年5月である。会員から事務局にいただいた書籍を最初に手にすることができるのは、事務局を担当する人間の数少ない特典と言えるだろうが、今回はとりわけそのことを痛感している。

そんなこともあって、いつもなら（手抜きし）謹呈本のリストを掲載するだけのこともあるが、今回は少し力が入って紹介させていただきたい。ついでに言うと、『現代社会と大学評価』の次号（2022年に入ってから刊行）に書評を投稿させていただくつもりである。だいぶ先になってしまうが、本書は多くの媒体で紹介されると思われるので、わたしのような者の駄文はまだまだ先であっても何ら問題はない。

さて、わたしは自らの専門を記す際に「経営学、大学評価論」としている。もちろん大学評価に関する研究（と言えるかどうかは別にして）は、本学会との関わりでのものであるが、きわめて限定的なことしか取り組めていないし、本格的なものではありえない。

世間では、「大学改革」や「大学評価」が時流になるにつれて、にわか専門家が増えてきたように思う。大学教育に関わっているからといって、大学改革論や大学評価論などが専門であると看板を掲げるのはあまりにおこがましいと自覚している。上記の「大学評価論」はある意味では（にわか専門家に対する）皮肉であるとともに、わたしの覚悟を示したものである。

そのようなわたしにとって、研究（と実践）の方向を示してくださる方が何人かいらっしやる。そのうちのお一人が光本さんである（ちなみに。もうお一方、関西在住の会員がいらっ

しやる。その方からは、大学図書館の蔵書検索や貸し出しを依頼され、問題の焦点を盗み取らせていただいていることを告白したい）。

本学会の設立時から会員として、そして「永遠の幹事」として関わってきたわたしにとっては、さまざまな専門分野の会員との出会いは本当にかけがえのないものであった。ミーハーな性格のわたしは、名前しか存じていなかった著名な研究者との出会いに感動さえ覚えてきた。そのようななかで教育学を専門とする、とりわけ高等教育を専門とする方とのご縁は少し違った印象がある。

それは、端的に表現すれば「きっちりしている、手堅い」「このように問題を認識すべきなのだ」ということであり、絶えずわたしの研究や実践に反省を迫っている。まことにありがたい方々である。

2020年以降、日本でも感染拡大した新型コロナウイルスは、大学における教育や研究にも深刻な影響をもたらしている。コロナ・パンデミックは現在もおさまる気配を見せることなく、学生や教職員はそれへの対応を強いられており、まさしく現在進行形である。

そのようなもとの、光本さんが執筆された本書は、2020年1月から2021年3月までにおける日本の大学について俯瞰したものとなっている。オンライン授業を初めとする特定の問題に関して取り上げた論考は多々見られるが、「大学危機」の全体像をとらえたものは寡聞にしてほとんど知らない。

光本さんは、「COVID-19パンデミックは『大学の危機』の本質を明確に浮かび上がらせたように思われました」（142頁）と述べている。この一言に尽きると思う。この「危機」の

ありようを、「大学危機」の全体像（第1章）、オンライン授業（第2章）、教育費負担（第3章）、大学における感染症対策に関する政府の対応（第4章）について述べて明らかにしている。そのうえで、第5章ではポストコロナにおける大学像を提示しようとされている。

本書の詳細については、予定している書評において言及したいと思うが、2021年6月の時点で、危機に瀕する大学を考えるうえで本書は格好の1冊であることを強調したい。巻末には以下の3つの資料が掲載されており、有益である。

資料1 コロナ危機に関するアンケート調査一覧

資料2 年表（2020年1月～2021年3月）

資料3 文部科学省通知・事務連絡等一覧

最後に余計なことを記させていただくが、ご容赦願いたい。光本さんの前著『危機に立つ国立大学』クロスカルチャー出版、2015年より

も本書の方が田中昌人記念学会賞によりふさわしいように思う。それは、日本の大学の全体が直面する「危機」を解明し、大学評価にとって有益かつ不可欠な視点を示しているからである。

本書が学会内外で広く読まれ、議論されることを願ってやまない。

付記：学会顧問の山本健慈さんへのインタ

ビューが、「日本の学術と大学教育に希望ある未来を」と題して『経済』

2021年6月号に掲載されている。あら

ためて本学会は小さな学会であるが、

日本の学術と大学に対して大きな責任

を有するとともに、大きな可能性を秘

めていることを痛感した。

(2021年6月3日記)

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第18号への投稿募集

学会年報『現代社会と大学評価』第18号（2022年7月刊行予定）に掲載される学術論文、資料、研究ノート（以上、査読審査対象）、実践報告、レビュー、動向（以上、閲読審査対象）への投稿を募集しています。2021年7月末日までに学会ウェブサイトに掲載されている「年報『現代社会と大学評価』執筆要領」をご確認の上、ふるって投稿をお願いします。投稿ご希望の会員は、上記執筆要領の「11.原稿送付先・問い合わせ先」宛、郵送・Fax・電子メールのいずれかの方法で申し込みをお願いします。書式は問いません。

なお、査読審査対象となる原稿の提出期日は9月末日とします。また、その他の原稿については、11月末日までに提出されたものを第17号に掲載対象とします。その後、所定の審査を行ない、2021年2月末日までには掲載の可否をお知らせします。

(文責・水谷勇 年報編集委員長)

【大学評価学会の日誌】

2021年3月5日（金） 第Ⅶ期第9回理事会
2021年3月6日（土）・7日（日）第18回全国大会（愛知工業大学、オンライン）
3月6日（土） 第18回会員総会（ ” ” ）
3月7日（日） 第Ⅶ期第10回理事会・第Ⅷ期第1回理事会 合同理事会
（ ” ” ）

3月13日 教育学関連学会連絡協議会第9回総会（日永副代表が出席）

<予定>

2021年8月29日（日） 第Ⅷ期第2回理事会、第60回研究会
2021年11月頃（予定） 第Ⅷ期第2回理事会、第61回研究会
2022年3月5日（土）、6日（日）第19回全国大会（龍谷大学）

献本

大学基準協会監修 永田恭介・山崎光悦編著

『教学マネジメントと内部質保証の実質化』東信堂、2021年



学会年会費の請求について

2021年度（2021年3月1日～2022年2月28日）の学会年会費の請求書を同封させていただいております。過年度分が未納の方につきましては、2021年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、共同事務局 (hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp) までお願いいたします。

編集・発行：大学評価学会

〈学会事務局〉 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学
大学教育研究センター 西垣順子研究室
Tel/Fax:06-6605-2128（西垣）
e-mail:jnishigaki@osaka-cu.ac.jp

〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学
経営学部 細川孝研究室
Tel/Fax：075(645)8634（細川）
e-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
URL：<http://www.unive.jp/>

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会
